

2008年

11月22日（土曜日） - “喜ぼう!!高齢化社会” 百歳バンザイ推進 -

今、我が国では少子高齢化社会が進み、高齢化率も30年前の10%にもいかない状況から今や20%を超え、これに伴い高齢化社会の様々な社会的課題が出てきています。後期高齢者医療制度の導入など医療や介護の負担の問題、年金制度の維持など制度や生活の基本に関わる問題、一人暮らし世帯の安全安心や高齢者の交通事故増加など広く安全安心に関わる問題など、解決を推進すべき課題がたくさん出てきているわけですが、こうした課題にまず真摯に取り組んでいくことが重要であることはいうまでもありません。

しかしながら、ますます進む高齢化社会、このような何か重荷ばかりを背負っているかのような受けとめばかりで本当にいいのでしょうか。課題ばかりでヒーヒーいっているだけで本当にいいのか。私は、それは違う、本当にもったいないと思う。

高齢化社会は、本来、“もっともっと喜ばせていただくべき社会” “心から感謝し喜び楽しんでいくことができる社会” ではないでしょうか。平均寿命も今や世界の一、二を競うほど伸びている中で、長寿自体、もちろん課題はあるけども、不老長寿が古くからの世の永遠の願いであるように、本来大いに喜ぶべきことであり、命どう宝だ。命を長じさせていただけるとは果報であり、感謝を寄せるべきことです。個人個人の心の中の自覚とは別に、今、社会として、そこへの感謝の想いが少し欠けているのではないかと感じています。

私は、今こそ“喜ぼう!!高齢化社会” “感謝しよう!!長寿社会” と言いたい。

そして、高齢化社会の負担の側面の解決促進はもちろんありますが、むしろ高齢化社会の光の側面、高齢者のゆえに広げ深められる喜びや宝をもっともっと発見し、老いや長寿をますます喜び楽しんでいただくことができる地域社会を目指していくことが、今後豊かなまちづくりの開拓のうえでますます重要だ。